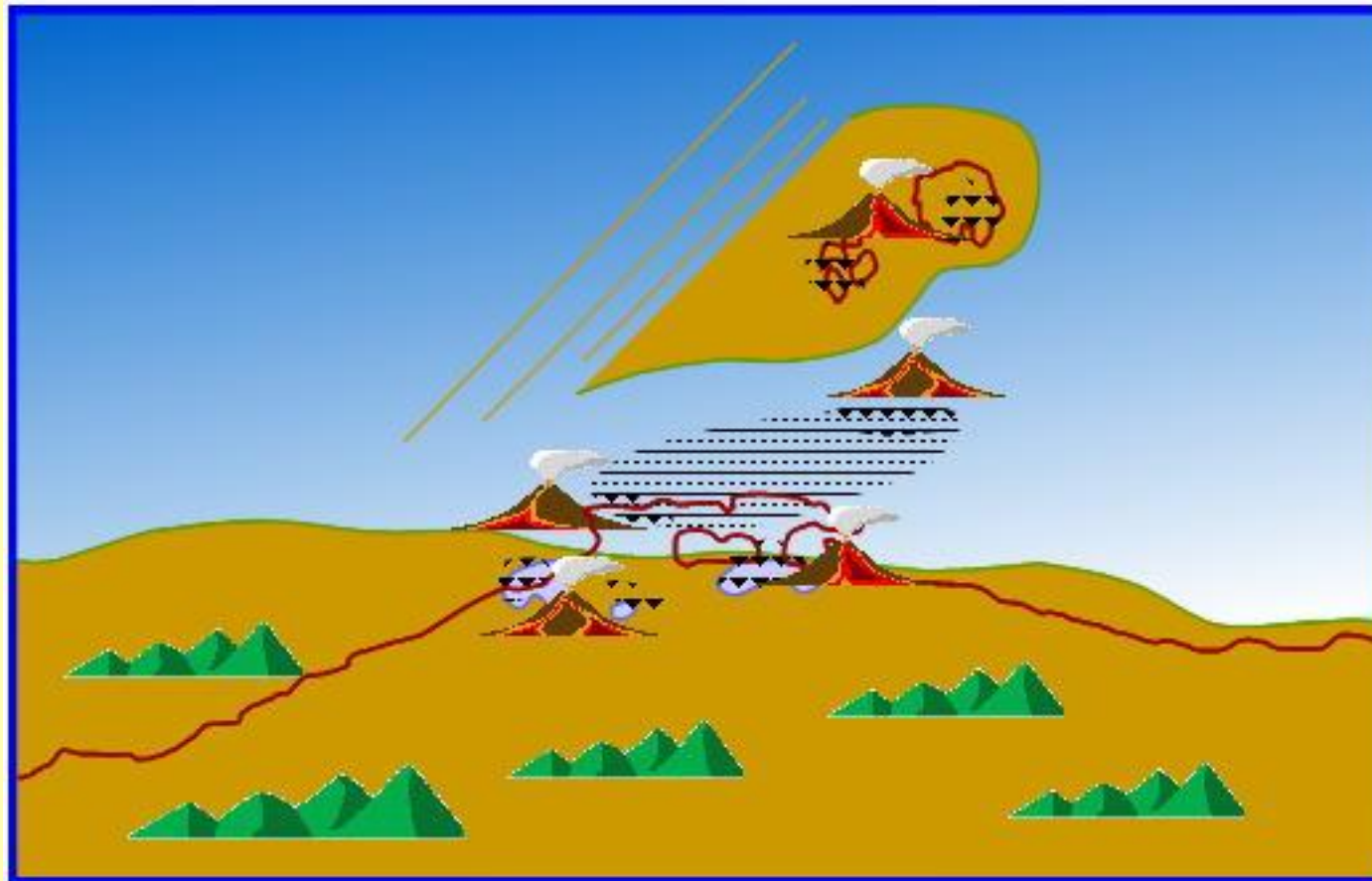

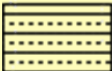
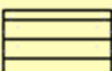
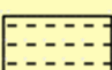
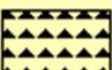







出雲地域 堆積当時の環境

波多層・古浦層 堆積期 22.5—16.6 Ma ago (Ma ago : 百万年前)



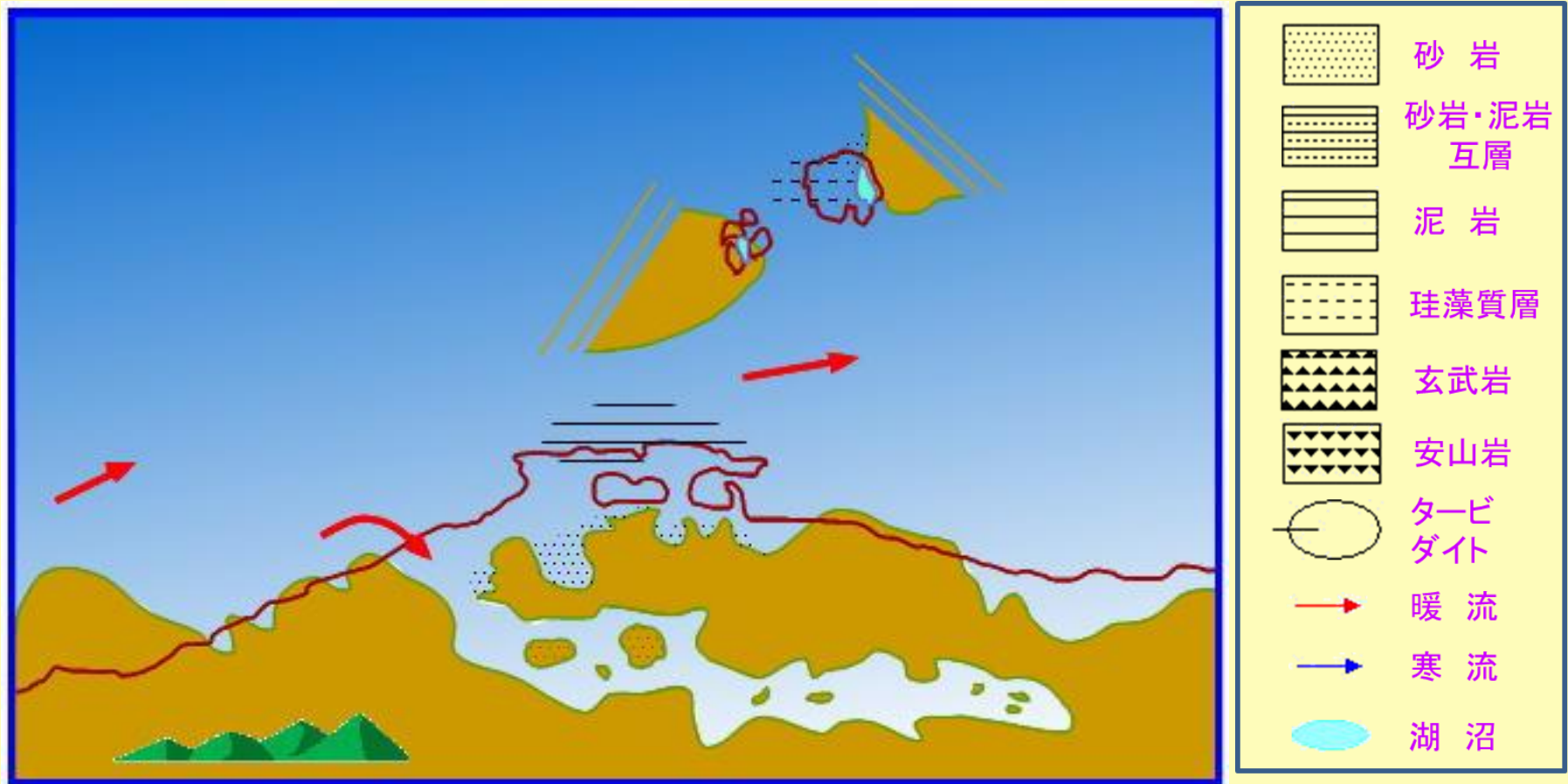
	砂岩
	砂岩・泥岩 互層
	泥岩
	珪藻質層
	玄武岩
	安山岩
	タービ ダイト
	暖流
	寒流
	湖沼

この頃、内陸部では陥没した盆地(沼など)が形成され、そこでは、デイサイトや安山岩の火山活動がみられました。島根半島でも安山岩、デイサイトなどの活発な火山活動がありました。半島部の古浦層からは、タニシやササノハガイなどの淡水の貝類の産出もみられることから湖沼の堆積環境であったことがわかります。また、樹木に珪酸分がしみこんだ珪化木もしばしば見つかります。



出雲地域 堆積当時の環境

川合層・成相寺層 堆積期 16.5—16.0 Ma ago (Ma ago : 百万年前)




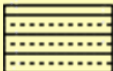
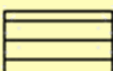
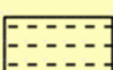
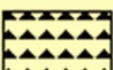





この頃、陸地がさらに沈み海が侵入しはじめてきました。波多層のころ活発だった火山活動はほとんどみられません。この頃の淡水から汽水、海水への変化はとても急です。規模の大きな盆地にたまっていた淡水が、急速に海水と入れ替わった可能性もあります。また、この頃は暖流が流れ込んでおり、熱帯的な気候下においてマングローブの泥干潟には現在では熱帯の海にしか見られない、マングローブシジミやセンニンガイなどの貝類、ビカリアなどの巻き貝が生息していました。



出雲地域 堆積当時の環境

久利層・成相寺層 堆積期 16.0—14.5 Ma ago (Ma ago : 百万年前)



	砂岩
	砂岩・泥岩互層
	泥岩
	珪藻質層
	玄武岩
	安山岩
	タービダイト
	暖流
	寒流
	湖沼


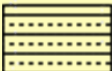
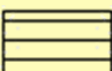
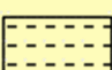
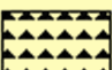





川合層のころからの海侵がさらに急速に進んでいきました。そして、**深海化**も進んでいったようです。また、海底では隆起・沈降が選択的に行われ、スランプ構造がしばしばみられます。また、出雲・松江地域の海底では**海底火山活動**が活発におきていました。この頃は、**日本海の拡大期**であり、海は急速に深化しました。海底の泥の層では、**小型のホタテ貝**の仲間(ペッカムニシキ)や**クモヒトデ**の仲間が群集をつくっていました。



出雲地域 堆積当時の環境

大森層・牛切層 堆積期 14.5—14.0 Ma ago (Ma ago : 百万年前)



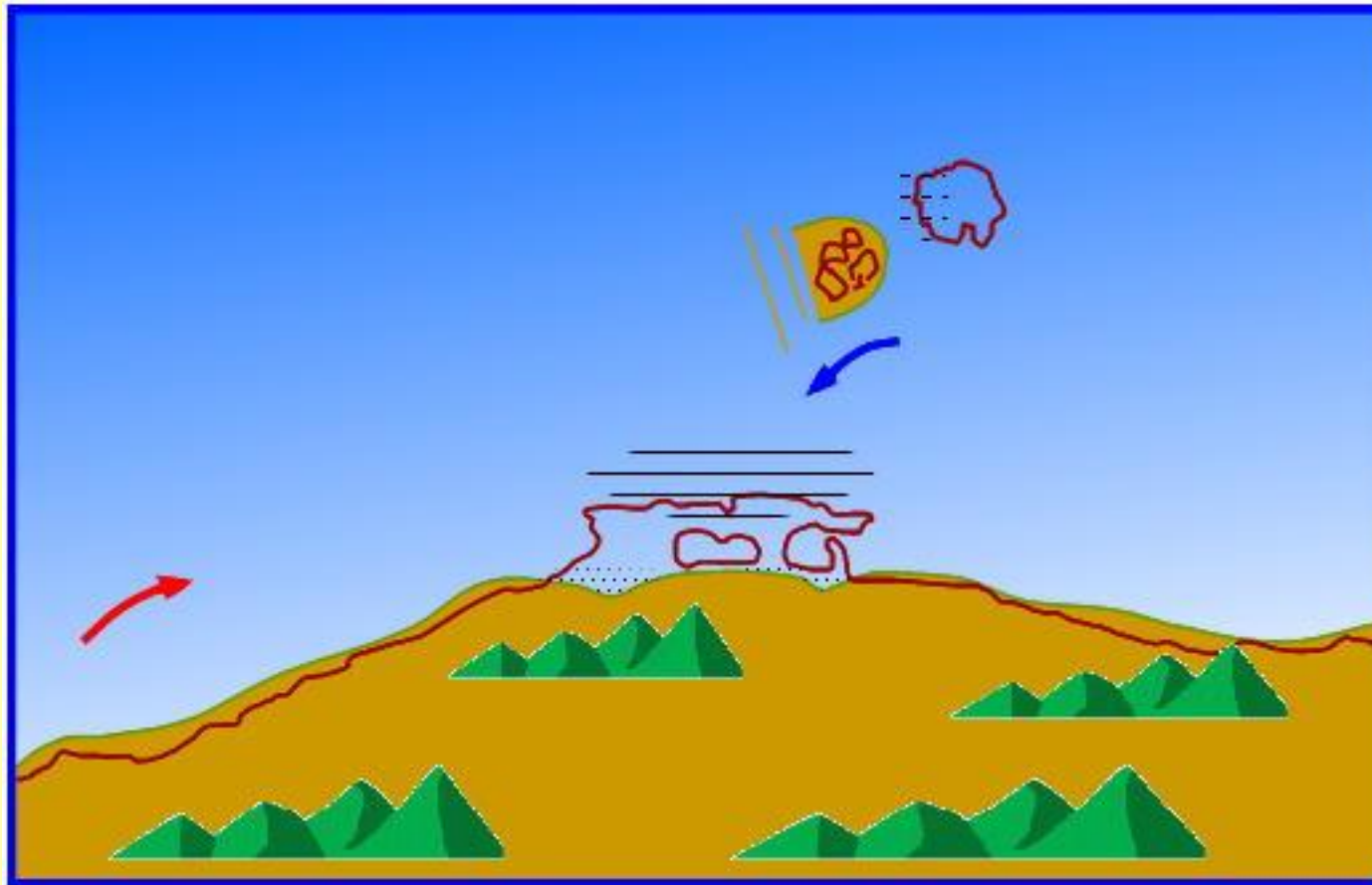
	砂岩
	砂岩・泥岩 互層
	泥岩
	珪藻質層
	玄武岩
	安山岩
	タービ ダイト
	暖流
	寒流
	湖沼


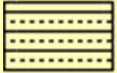
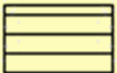
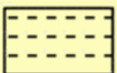

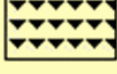
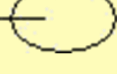



この頃、海侵はほぼ終わり逆に今まで、海だったところが陸になってきました。そして、陸では、安山岩やデイサイトの陸上火山活動が活発に行われていました。この火山活動に由来する碎屑物が北側の海にたまっていきました。その中で、より陸に近いところに堆積したものが来待層だと考えられます。沖合にあたる牛切層では多くの海底火山が噴出し火山碎屑物を含む多くのタービダイト層や水中火砕流堆積物が形成されました。この頃の化石から、暖流の影響はまだみられますが、寒流の影響も見られはじめるようになりました。この頃には、大型のサメやパレオパラドキシアなども生息していました。



出雲地域 堆積当時の環境

布志名層・古江層 堆積期 14.0—12.0 Ma ago (Ma ago : 百万年前)



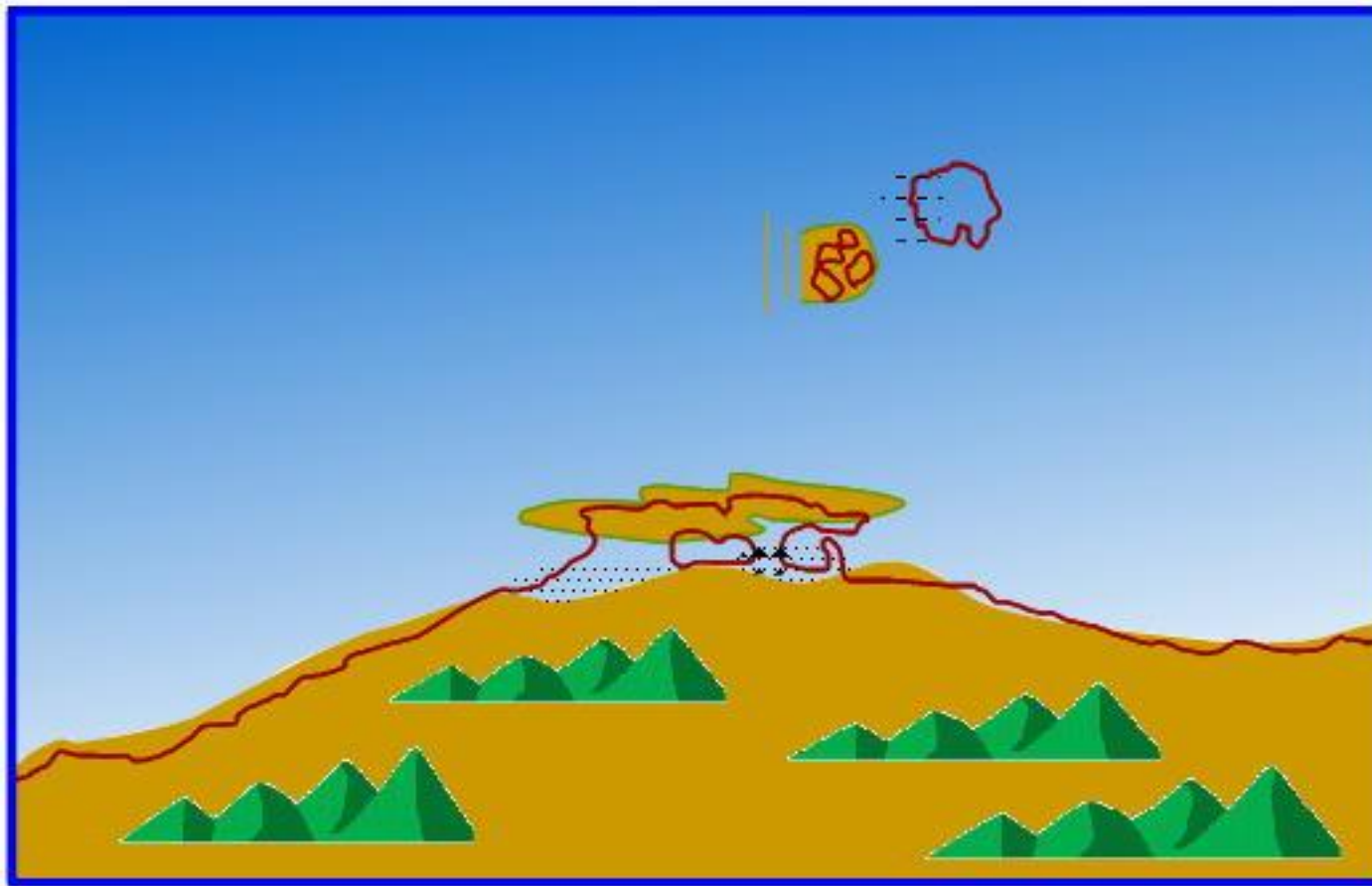
	砂岩
	砂岩・泥岩 互層
	泥岩
	珪藻質層
	玄武岩
	安山岩
	タービ ダイト
	暖流
	寒流
	湖沼


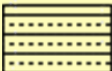
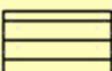
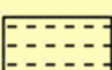
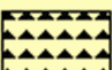





この時期以降、海であった証拠がみられるのは、出雲・松江地域のみです。つまり、現在の海岸線とかなり近いことがわかります。陸域に近い海では布志名層が堆積しており、その北側では急に深くなり、そこに古江層が堆積していました。布志名層の初期はタコブネなどを産出し暖流の影響は残っていましたが、その後寒流系の要素の強い貝類が多く産出してくるようになりました。また、この時期は火山活動のみられない平穏な時期でもあります。



出雲地域 堆積当時の環境

簸川層-神西層・松江層 堆積期 12.0-10.0 Ma ago (Ma ago : 百万年前)



	砂岩
	砂岩・泥岩 互層
	泥岩
	珪藻質層
	玄武岩
	安山岩
	タービ ダイト
	暖流
	寒流
	湖沼

島根半島部が隆起し、そこに陸が生じてきました。半島と内陸部にはさまれた松江層は浅海の砂にすむ軟体動物の化石、汽水域の魚類やエビ、有孔虫の化石などが産出しています。
また、この地域ではアルカリ玄武岩の活動もさかんにおこりました。

